

会 議 録

会 議 名		第 73 回 八王子市ごみゼロ社会推進協議会				
日 時		令和7年(2025年) 2月7日(金)	開始	午後 2 時 00 分	終了	午後 3 時 50 分
場 所		本庁舎 8 階 801 会議室				
出席者	委 員	石井委員、守屋委員、吉田委員、住村委員、田頭委員、 平澤委員、佐怒賀委員、嶋田委員、伊藤奈美江委員、 伊藤洋史委員、増渕委員、黒木委員 以上 12 名				
	事務局等	小林資源循環部長、木下循環型都市推進専門管理官、堂本ごみ減量対策課長、河内廃棄物対策課長、高田清掃施設整備課長、青木ごみ総合相談センター所長、清水戸吹清掃事業所長、枝根館清掃事業所長、森田戸吹クリーンセンター所長、熊澤館クリーンセンター所長 【ごみ減量対策課】白鳥主査、小岩井主査、前川主査、篠沢主任、日野主任、田村(裕)主任、大神田主事、森田専門員 【清掃施設整備課】後藤課長補佐 【戸吹クリーンセンター】黒田課長補佐				
欠 席 者		矢島委員、田野倉委員 以上 2 名				
議 題 等		1.議題 (1) 座長の互選について (2) 資源循環行政について (3) ㈱ジモティーとの不要品リユース実証事業（環境省モデル事業）の実績について (4) 廃食油店頭回収事業の拠点の拡大について 2.その他				
公開・非公開の別		公開				
傍 聴 人		なし				

配 布 資 料	会議次第 第 73 回ごみゼロ社会推進協議会 席次表 八王子市ごみゼロ社会推進協議会 委員名簿 令和 7 年度開催日程調整表 資料 1 資源循環行政について 資料 2 (株)ジモティーとの不要品リユース実証事業(環境省モデル事業)の実績について 資料 3 廃食油店頭回収事業の拠点の拡大について
1.議題 (1)座長の互選について (委員の推薦及び座長の指名により、石井委員が座長、伊藤洋史委員が副座長に選任) (2)資源循環行政について 【意見、質疑応答等】 委員：八王子市は、人口 50 万人以上の都市で、1 人 1 日あたりのごみ排出量の少なさの上位をとっているが、多摩地域で 1 人 1 日あたりの量を比べるとどうか。 市：多摩地域でみると 10 万人以上の都市で日野市や小金井市がごみの少なさの上位になっている。1 人 1 日あたりの排出量だと、本市は約 720g、日野市は約 600gである。 委員：ごみ分別アプリは浸透してきたか。 市：ホームページや SNS、広報で周知を進めており、現在のダウンロード数は約 1 万 4 千で、日々増え続けている。 委員：1 人 1 日あたりの排出量の少なさ 1 位は素晴らしいことだと思うが、ごみ処理に関する経費はどのようになっているのか。金額ベースで、時系列的にみると収入と支出のバランスはどうか。リユースを進めればそれでいいのだろうか。そういったチェックはされているのか。 市：ごみ処理基本計画を改定した中で、「他都市との比較に基づく評価と課題」という項目があり、検討調査した経緯がある。中核市 62 都市の中で一人当たりのごみ処理経費は、本市が一番高額になっている。多摩地域に独自の埋め立て場がなく、二ツ塚処分場を運営し、焼却灰を持ち込みセメント化をしているため、多摩地域は全体的に他の地域より処理費用が高額である。本市は多摩地域でみれば、26 市中 11 位である。 委員：市民にはあまり見えないところなので、今回確認してみた。	

委員：ペットボトルや容器包装プラスチックの売り払いで得られる収入は、支出に対しどれくらいの割合か。

市：考え方としては、ごみ減量をするごみ処理経費削減につながる。分別を進めると売り払い出来る金額が増えるが、リサイクルをするためにはまた経費がかかるので、そういったことを踏まえながら取組を進めている。

委員：リサイクルのために経費が掛かるのは仕方がないと思うが、時系列的にどうなっていくのかを知りたい。1位を維持していくのは良いことだが経費が膨らみ続けていくのは課題となると思う。

市：ペットボトルの売り払いは、コカ・コーラとのボトル to ボトルの契約をしたことによって、これまでより高い単価で取引をしている。また、不燃ごみには高く取引される金属が多く含まれているので、手選別を行い、少しでも高く売り払いができるようにしている。そのようなことを含め、歳入を増やすための取組は常に実施している。

委員：ふれあい収集とは、どのような方が対象になるのか。収集日はいつか。

市：認定にはいくつか条件があるが、最近の傾向としては認知症の方が増えてきている。分別や指定された曜日に出すのが困難な方で、そういった方にはケアマネジャーの方が付いていることが多く、その方と職員で協議をし、曜日を定めている。収集の際は全品目を収集し、収集場所もあまり負担にならないよう玄関の前や中などにしている。それぞれの状況に合わせ話し合いながら取組を進めている。

委員：前回質問したが、市役所内の食堂の食品ロスはどうだったか。

市：食堂に確認したところ、提供物に対する食べ残しは0.2%くらいとほとんどないということであった。職員だけでなく、市民の方にもご利用いただいているが、多くの皆様に食べ残しなく食べていただけている状況である。

委員：それは良かった。

(3) ㈱ジモティーとの不要品リユース実証事業（環境省モデル事業）の実績について

【意見、質疑応答等】

委員：持込可能なものの基準について知りたい。

市：ジモティーではそのままの状態、次の方が気持ちよく使うことのできることを定義としている。また大きさの規定もあり、3 辺合わせて 180 cm 以内の大きさのものが対象となる。

委員：本日の資料の中に、西暦と和暦の表記が混在しているので統一してもらいたい。

市：承知した。

(4) 廃食油店頭回収事業の拠点の拡大について

【意見、質疑応答等】

委員：広い八王子市の中で7か所ではやはり少ないと思うので、コンビニなどでもできればさらに回収量が増えるのではないか。これらの拠点まで持っていくのが大変という方も多くいると思うが、どのように考えているか。

市：この事業は民間企業が主体で約1年前に始めたもので、この度4店舗増えることとなった。実施企業としては今後も拠点を増やしていきたいという意向であることから、市としてもできる限りの支援・協力をしていきたいと考えている。

委員：拠点のスーパーは、どのような気持ちでこの事業を受けているのか。

市：多摩地域でみると、同事業を実施しているスーパーの数は少なく、イトーヨーカドーも去年の夏から同じような取組を東京都と始めたところである。この事業を始める際にアルプスと協議を行い、油漏れが起きた場合店舗が汚れてしまうなどの懸案事項も挙げられたが、運営を進めながら対応策を講じていくことでご納得いただいた。今のところ大きなトラブルはないことから、今回店舗を増やして頂いたところである。その他のスーパーにも声掛けを進めており、市内を網羅できるよう引き続き支援したいと考えている。

委員：集客アップや顧客サービスなどの効果が立証されれば、受け入れてくれるお店も増えるのではないか。コンビニだと油を置くだけで帰ってしまう方も多いかも知らない。地元完結型ではないスーパーだと全国展開といった話になってしまい難しいのでは。

委員：最近あまり家で油を使った料理をする機会がないため、この事業は利用したことがない。

委員：揚げ物を専門とするお店の廃食油はどうか。

市：飲食店・スーパーなどの事業系の廃食油は9割以上リサイクルが進んでいる。現在、世界的に航空燃料の枯渇が危惧されており、てんぷら油などが持続可能な航空燃料として利用されることが期待されている。しかし航空燃料に全て廃食油を回すと、これまで豚のエサなどに使用されていた分が不足する可能性がある。一方で、家庭の廃食油は廃棄されたり、調査によると下水に流すという人もいるようであり、1割もリサイクルされていない状況である。そのためこの事業は家庭系の廃食油の再利用を目的に取り組んでいる。

委員：揚げ物をするのは、若い男の子のいる家庭であると思うので、その辺りの世代にPRしていくのはどうか。

委員：ペットボトルに移し替えるというのが、うまくできるものなのだろうか。

委員：ろうとを使えばできる。昔同じような取組があり持っていったことがあるが、最近では全く油を使用しなくなってしまった。

市：この事業を始めて驚いたのは、お歳暮などで届いたような 10 年以上前の未開封のものを持ち込まれる方も多いことである。もし同じように家で眠っているものがあれば、ぜひお持ち込みいただきたい。

2.その他

資源集団回収事業について

市：令和 7 年(2025 年)4月 1 日から補助単価の見直しをさせていただく。

委員：この補助金は自治会の財源となっているが、減額する一番の理由はなにか。

市：持続可能な行財政運営のため、全事業を見直す中でのものである。具体的には戸別回収と集団回収が二重になっているのではないかという意見があったことから、議論を深め、市の歳出を少なくするためこの決定となった。

市：市では給食費の無償化や障がい者・高齢者施策といった様々な事業を新たに行う必要があり、今までやってきたものを維持したまま実施するというのは予算的に難しい状況である。そのため様々な事業を廃止・見直しをするなかで、一度この事業は廃止という判断になった。しかし、部としては継続したい事業であったため、議論を続け、補助単価を見直すことによって継続できることとなった。できればさらに拡充したいところではあるが、年々資源循環部の予算は減額されていることから、事業を行う際は、国の補助金を利用する等、何か歳入があるものといったことを念頭に置いて行っている。

委員：戸別回収と集団回収が二重になっているとの話があったが、集団回収を行う地域は戸別回収をしなければ良いのではないか。

市：現在も、集団回収を行っているため、戸別回収を行っていない地域もある。単価の根拠としては、多摩地域やほかの地域の自治体に確認したが、もっと安い金額を設定している自治体もあった。その中で多摩地域で見るとこの金額が妥当なものであった。

委員：この補助金は町会・自治会の年間の予算に組み入れているものなので、これが減額になると大変なインパクトになる。町会自治会連合会では理解を示す方はいないのではないか。

委員：缶は金額が高かったので、取り組んでいる自治会が多いのではないか。

委員：うちの自治会は子供会でもやっており、これがなくなったら、自治会のコミュニケーションや団結にヒビが入ると思う。

市：集団回収を実施するなかで、拠点の数を減らすことや、業者に回収に来てもらう回数を減らす、また可能であれば持込を行うことによって経費を減らすことができと思うので、ご検討いただきたい。

委員：市内の町会・自治会は 570 近くあり、その中で集団回収を行っているのは 6 割くらいの団体で、そこに影響が出るということである。

委員：元々は市から働き掛けがあつて始めた取組なのに、急に変更になってしまうのはどうなのか。

市：市民の皆さま向けに説明会を 5 回実施するので、そこで説明させていただきたいと考えている。

委員：ペットボトルのフタは売り払いできないのか。

市：一部のスーパーで集めているところもあるようだが、市では実施予定はない。

委員：現在、町会・自治会に入っている人と入っていない人の差が明確になっていない。そのため、維持する側としては、会員になる色々な材料が欲しいので、ますます非会員が多くなってしまうと思う。自治会の連合会に属さなくていいと思う自治会も増えるのではないかな。

委員：廃品業者にこの件は、もう伝わっているのか。

市：町会・自治会の方への説明会の連絡と併せて業者にも通知を送付している。

次回のごみゼロ社会推進協議会の日程について

市：令和 7 年度の協議会開催日程については、調整のうえ後日改めて連絡する。

委員：今回4人の方が新しく委員に就任されたことから、市内の清掃工場の見学を含めた協議会の実施も検討願いたい。